

巨理名取共立衛生処理組合議会の報告

3月18日に開かれた全員協議会で、巨理名取共立衛生処理組合議会の選出議員から報告がありました。

東日本大震災で被災した施設の復旧状況及び建設予定施設の進捗状況について

は次の通りです。

津波で大きな被害を受けた浄化センター（し尿処理場）は、改修の期間、白石衛生センターなどへの業務委託を行い、平成25年2月から試運転を開始していま

す。また、巨理清掃センター（ごみ処理施設）は、24年9月から操業を再開しています。

新ごみ処理施設の整備は、岩沼市下野郷字新藤曾根地内（約4畝）に計画されており、24年度までに生活環境影響調査、住民説明会等が実施されました。25年度から建設に着手し、28年4月の稼働を予定しています。新たに整備する最終処分

宮城県後期高齢者医療広域連合議会の報告

2月8日の議会で、平成25年度の後期高齢者医療一般会計予算及び特別会計予算、24年度の特別会計補正予算及び条例の一部改正2件の5議案を審議し、原案可決されました。

条例の一部改正は、被用者保険の扶養者に係る保険料の9割軽減や所得の少ない方に係る保険料の特別軽減を24年度と同様に25年度も減額するための改正であり、また、そのための財源を特例基金に充当するものです。

【意見書】

「4月以降も東日本大震

場については、名取市内予定地への建設が中止されたことを受け、組合議会から管理者会議に対し、早期建設の申し入れを行っていました。これは、巨理最終処分場が25年度までに、岩沼最終処分場は29年までに満杯になる見込みを受けてのもので、現在は2市2町全域を対象に建設候補地についてコンサルタント調査を行っています。

被災者の医療費一部負担金を免除するための財政支援を求める意見書」が全会一致で可決されました。

〔一般質問から〕

問 25年度の東日本大震災被災者の一部負担金免除をどう行うのか。必要性はあると考えるか。

広域連合長 被災市町村の財政が厳しい折、継続は極めて困難な状況である。十分な検討と構成市町村と協議の上、判断したい。

まだまだ生活再建の方がたくさんいらっしゃる中で、その必要性があるということはやぶさかではない。

編集後記

東日本大震災から3年目となりました。議会としても改選後震災復興推進特別委員会を立ち上げ、この地域に一日も早い落ち着いた暮らしが取り戻せるよう全力で後押しを続けています。

先日は仙台空港付近の5ヶ所で被災堤防の復旧も完了、集団移転地の造成も着々と進められています。

質問スペースを拡大

今回の定例会における質問者が14人（会派代表質問5会派、個人的一般質問9議員）であったことから、議会だよりは通常のスペースを拡大して市民の皆さんが知りたい議会活動、一般質問内容をより詳しく伝えられるように、編集作業に当たりました。これからも、より身近に感じていただける議会だより編集を心掛けてまいります。

〈新ごみ処理施設の配置計画〉

